

創建

そうこん

巻頭言: 廣田篤彦 ・1

令和5年度 卒業研究テーマ ・2~3

令和3年度 就職状況報告 ・4~6

新任の紹介: 中山武徳 ・6

学術論文/研究発表/教室ニュース ・7

令和4年度 建築学教室教職員名簿 ・8

2022・6・19 VOL. 57 NO. 1 (通巻180号)

■ 日本大学・工学部・建築学教室 ■

コロナ禍に入ってから、かれこれ2年以上の歳月が流れた。厚労省が、国内初の感染者を確認したのが2020年1月15日で、中国武漢市への滞在歴のある男性が1例目とされている。また、同月18日には、屋形船の会合で集団感染が確認されるなど(判明は2月)、その後徐々に市中感染が拡大していくこととなった。そうした状況の中、2020年4月7日、政府は、緊急事態宣言なるものを発出し、その後、まん延防止措置等重点措置期間も含め、長期に渡って様々な行動制限を余儀なくされた。当時の安倍総理は、4月7日から5月6日までとされていた緊急事態宣言を31日まで延長する旨を発表の際(5月4日)、専門家より提言された、感染拡大を予防する「新しい生活様式」のもと、感染防止等を実施するよう求めた。

「新しい生活様式」とは、(1)一人ひとりの基本的感染対策、(2)日常生活を営む上での基本的な生活様式、(3)日常生活の各場面別の生活様式、(4)働き方の新しいスタイル、の4本の柱で構成されています。このうち(1)は、①身体的距離の確保、②マスクの着用、③手洗い、を3つの基本と位置付け、(2)における「3密」(密集、密接、密閉)の回避など、一人ひとりの心掛けが重要だとしています。また、買物や娯楽・スポーツ等、公共交通機関の利用、食事、イベント等への参加など、(3)日常生活の各場面での生活様式に関し、徹底した行動変容を行うことが必要だとし、テレワークやローテーション勤務、時差通勤等により、「人の接触を8割減らす」よう求めています。

これらの「新しい生活様式」の実践によって、我々の日常生活は大きく様変わりしました。例えば、2021年12月における日本国内のマスク着用率は88%(フランス72%、イギリス69%、アメリカ61%)と、欧米に比べて高い

水準を維持しています(日本リサーチセンター調べ)。これは、日本人の勤勉さを表しているとも言えますが、高温多湿な日本の夏場ですえ、多くの方がそれを自主的に実践し続けていることは感嘆に値するとともに、店舗や会場の入口における手指の消毒や、一日に幾度も手洗いをする様は、数年前までは見られなかった光景です。

新しい生活様式による行動変容は、教育環境にも大きな影響を及ぼしています。授業では、実験や演習を除いてオンライン授業が導入されました。通信環境の整備はもちろん、教員によるビデオコンテンツの作成や、Google MeetやZoomによるゼミや卒研でのミーティングなど、「いつでも」「どこでも」とい

新しい生活様式を考える

教授 廣田 篤彦

う新しい講義スタイルが構築されるとともに、施設の利用制限や友達づくりなど、リモートの偏重による課題も散見されます。また、インターシップや会社説明会などの就職活動もオンライン開催が主流となり、新たな面接対策が必須となりました。最近の報道によると、画面越しに見える限られた情報の重要性から、写り込む背景の状態や(自室の整理整頓の様子等)、表情を明るく見せるためのカメラ周りの照明の設置や化粧の仕方など、相手の印象を左右する要素の工夫が必要になってきているとのこと(レクチャー動画も多数upされています)。また、成績優秀な学生さんであっても、カメラを通しての面談に慣れていない人や苦手な人は、就職活動に苦戦するケースもあるようです。会社説明会や

一次面接などは、コロナ収束後も一定数、一定期間、オンラインによる運用が続くことも考えられるので、こうした対策もしっかりと行っていくことが肝要だと思われま

す。一方、生活様式や行動変容は、都市・地域を取り巻く課題も変えてきました。例えば、外国人の入国制限によってインバウンド観光は激減し、近年、外国人観光客の依存度が高かった観光地は大打撃を受けています。くしくも、国内観光の重要性が再確認された訳ですが、そもそも移動自粛下の中で、どのように観光客を確保するのかは極めて深刻な課題と言えます。そうした中で、マイクロツーリズム(地元や近隣への短距離旅行)やワーケーション(ワークとバケーションの造語)などの新語は、今後の観光まちづくりにおける新しいキーワードとなるかもしれません。また、リモートツアーやバーチャルツアー、メタバース(3次元の仮想空間やサービス)など、映像技術を駆使した観光体験や買物の拡充も期待されており(FacebookやSony等が参入表明)、体験の対象や方法も新たなステージへ移行しつつあると言えます。一方、リモートワークの推進は、地方移住を促進させるのではないかと見方もあります。実際には仮住まい(二次的住居)の人が多くようですが、これらの行動が、多少なりとも地域の活性化や過疎の解消、空き家対策などにも寄与するのではないかと個人的には期待しています。

昨今、徐々にコロナ禍の呪縛から抜け出せる兆候が見え始めていますが、この2年間で変わったことうちの幾つかは、今後もスタンダードとなって定着していく可能性があります。コロナ収束後に訪れる、新旧の生活様式が混在した新しい世界とはどのような未来なのか。これからはそういうことも含めて都市・建築の在り方を考えていく必要があるのかもしれない。

令和5年度 卒業研究テーマ

現在、建築学科には17の研究室があり、分野の違いから大きく区分すると、構造、材料・施工、環境・設備、建築計画、都市計画、歴史・意匠などの系に分類されます。各研究室は、それぞれの領域で専門的な研究・教育を行っています。

卒業に必要な科目の一つである卒業研究は、4年次生の期間に一年間を掛けて取り組みます。研究室に所属し教員や院生からアドバイスを受けることで、専門的な研究を実施することができます。まずは、「どのような卒業研究をしたいのか」を念頭にして、研究室を選択することが必要です。

卒業研究は論文と設計のどちらかを選択することができます。但し、研究室の分野的な特徴から、論文もしくは設計のどちらかに限定している研究室もあります。各研究室で定めている選択肢は、研究室名に続く[]で表記しています。

鋼構造デザイン研究室 〔論文〕 教授:浅里 和茂	空間構造システム研究室 〔論文〕 准教授:野内 英治
1. 鋼構造接合部に関わる研究	1. 空間構造に関する研究
2. 鉄骨造骨組の耐力と変形性状に関わる研究	2. 各種構造の設計・解析に関する研究
3. 構造物の地震時挙動に関わる研究	3. 構造物の振動・耐震に関する研究
4. 耐震診断および改修の判定評価結果に関わる研究	4. 構造解析ソフトウェアの開発
5. 各種構造物の構造デザインに関わる研究	5. その他(要望に応ずる)
コンピューテーション応用力学研究室 〔論文〕	構造解析研究室 〔論文〕 専任講師:日比野 巧
教授:ガン ブンタラ ステンリー	1. 耐震補強効果の評価手法に関する研究
1. 自然現象や生物の行動的な考え方を利用した構造物の最適化に関する研究	2. 既存建物の立体振動性状に関する研究
2. 無重力状態で自己釣合い・自己展開できる構造物(テンセグリティー)の研究	3. 建物の減衰評価に関する研究
3. 深層学習(人工知能)を用いて地震時における建物の階層のリアルタイムで震度階級の特定に関する研究	4. 建物の構造解析モデルに関する研究
4. 深層学習(人工知能)を用いて既存の建物の損傷状況に関する研究	5. 液状化現象に関する実験
5. 平坦な紙から立体になる制作方法や、立体の形状から平坦な紙に計算方法の研究	鉄筋コンクリート構造デザイン研究室 〔論文〕
振動システム研究室 〔論文〕 教授:千葉 正裕	専任講師:堀川 真之
1. 工学部構内にある教室棟の振動性状に関する研究	1. 極大地震による損傷する鉄筋コンクリート造建物の補修費用の推定
2. 郡山市域の地盤特性に関する研究	2. 福島県沖地震で被災した鉄筋コンクリート造建物の復旧性能評価
3. 建物の振動解析法に関する研究	3. 曲げ圧縮破壊する鉄筋コンクリート梁の実験と妥当性確認
4. 工学部構内にある情報研究棟及びその周辺地盤における地震動観測	4. 既存建物を対象とした非構造部材の損傷低減を可能とする補修・補強法の提案
	5. エネルギーの釣合に基づく骨組解析の高度化と応用に関する実践的研究

鉄筋コンクリート(RC)構造・材料研究室 〔論文〕	建築材料学研究室 〔論文〕
教授:サンジェイ パリーク	准教授:齋藤 俊克
1. 自己治癒・自己修復機能を有するコンクリートの研究・開発	1. ポーラスコンクリートの静弾性係数推定法の確立
2. ジオポリマー(セメント使用しない)複合体に関する研究・開発	2. ポーラスコンクリートの強度及び耐久性の改善
3. 相変化材料(PCM)の建物に適用に関する研究・開発	3. RC構造物用表面被覆材または断面修復材としてのポリマーセメントモルタルの性能評価
4. SDG'sを中心とした建築材料による二酸化炭素の削減に関する研究・開発	4. 自然環境下におけるコンクリート系材料の耐久性評価
5. 建築材料及び高強度コンクリートの防火・耐火性能とその改良について研究	5. 各種プレキャストコンクリート製品の製造法がその性能に及ぼす影響
6. インド住宅用の省エネ新構法や歴史的石造建造物調査・保存の研究	6. 高耐久性塗料の性能評価
7. 宇宙建設に関する研究	

材料・施工系

環境工学研究室 〔論文〕	建築設備・防災研究室 〔論文・設計〕
教授:濱田 幸雄	教授:森山 修治
1. 相変化材料の音響特性に関する研究	1. 歴史的建造物の防災と保存に関する研究
2. 鉄道騒音の測定・評価方法に関する研究	2. 歴史的木造建造物群の防災に関する研究
3. 暗騒音、居住者のパーソナリティーを考慮した遮音性能評価手法の確立に関する研究	3. 水害対策とキャンパス強靱化計画
4. 床衝撃音の評価方法に関する研究	4. 津波避難計画に関する研究
5. 風車騒音の測定・評価方法に関する研究	5. 病院や住宅の省エネルギーと災害時の生活継続計画の研究
6. 小型水力発電装置の開発研究	6. 老人福祉施設等の火災安全計画および生活継続計画の研究
助教:高橋 岳志/教授:濱田 幸雄	7. 古民家の居住快適性に関する研究
1. 木質建築の生産システムに関する研究	
2. 画像解析技術を用いた集落・外空間の構造分析に関する基礎的研究	
3. 戦後復興期における仲見世を用いた街づくりに関する研究	
4. 地方を中心に活動をする建築家に関する研究	

環境・設備系

建築計画研究室 〔論文・設計〕 教授:浦部 智義	住環境計画研究室 〔論文・設計〕
1. 文化・医療・教育など施設・空間に関する研究と計画	専任講師:市岡 綾子
2. 農村舞台など地域資源の役割・活用に関する研究と計画	1. 居住空間、住環境、子育て環境に関する研究
3. 構法も含めた環境デザイン建築に関する研究と計画	2. 地域におけるまち資源の活用に関する研究(主に、歴史的資源や公共的資源)
4. これからの建築・都市空間に関する研究と計画	3. 景観まちづくり・景観学習に関する実践的研究
5. これからの住まい・まちづくりに関する研究と計画	4. 地域住民との協働まちづくりによる居場所づくり
	5. その他(これまでとこれからに関わること)
医療・福祉建築デザイン研究室 〔論文・設計〕	建築・地域計画研究室 〔論文・設計〕
准教授:山田 義文	専任講師:宮崎 渉
1. 高齢者や重度肢体不自由児者の居場所づくり	1. 温泉街のまちづくりに関する研究
2. 高齢者向け住宅のハウスアダプテーション	2. 木質空間の印象評価に関する研究
3. 地域の医療・福祉施設などにおける災害時対応	3. 沿岸地域計画に関する研究
4. 改正バリアフリー法施行後の小中学校の環境整備	4. 道の駅施設の整備・利用実態に関する研究
5. 古民家等、地域資源の福祉転用による地域活性化	5. ファブ施設の空間構成と利用実態に関する研究
6. シェアする居住形態のインクルーシブデザイン	
7. 案内サインなどのカラーユニバーサルデザイン	

建築計画系

都市計画研究室 〔論文・設計〕	
教授:廣田 篤彦	
1. 水害に対する意識と避難行動に関する研究	
2. 空き家の実態と対応に関する研究	
3. 地方都市における道の駅の運用に関する研究	
4. コロナ禍の観光行動に関する研究	
	5. 乱横断に関する研究
	6. オリンピックのホストタウンに関する研究
建築歴史意匠研究室 〔論文・設計〕	建築史研究室 〔論文・設計〕
教授:速水 清孝	専任講師:山岸 吉弘
〔論文〕	建築史研究室では、各自で自由に卒研テーマを設定します。「建築史」という観点からの研究であれば、論文だけでなく設計を選択することもできます。
1. 建築・都市の歴史に関する研究	これまでに取り組まれた主なテーマには、「社寺、民家、城郭、まちなみ、都市、宿場町、職人」などがあります。今後は積極的に歴史・文化とデザインの研究を実施する予定です。
2. 建築・町並みの保存と活用に関する研究と実践	
3. 建築技術の歴史に関する研究	
4. 建築家の作家論に関する研究	
5. 建築技術者の職能と法制に関する研究	
〔設計〕	
1. 持続可能な社会に向けた建築の提案	
2. 歴史からの発想を踏まえた建築や都市への提案	

歴史・意匠系

令和3年度 就職状況報告

令和3年度の求人件数は962件でした。昨年度は1,213社から求人がありましたので、約250件の減少になります。一方で、絶対数としては多い状況が続いています。また、就職希望者は学部と大学院を合わせ計164名であったのに対し、就職者が164名となり、昨年同様内定率100.0%を達成しました。

図1は、工学部の求人企業数の本社所在地と就職者数の都道府県分布を示しています。建築学科を対象とした求人企業のうち、東京本社の企業は397件で全体の41.3%を占めています。福島県内は復興特需が落ち着いたこともあり90社に留まりました。

就職者のうち31.7%は東京本社の企業が占め、次いで東北の企業約30%となっています。昨年度は東京が29.1%、東北が38.9%でしたので、東北の企業に就職する学生が増加しています。地元福島県では、34名の就職者のうち31名が県内出身者となり、福島県出身者65名の大半が地元に残る道を選択しました。

その他、青森県・茨城県・栃木県・新潟県・群馬県・静岡県との6県でも、5割以上を地元出身者が占めています。学生の出身地である地元企業への就職者は44.8%で、昨年同様の高い割合を占めました。

表1:地域別求人企業数・就職者数

求人企業数(社)	(%)	就職者数(人)	(%)	
東京都	397	41.3	52	31.7
関東	167	17.4	31	18.9
北海道	13	1.4	1	0.6
東北	151	15.7	48	29.3
甲信越	26	2.7	8	4.9
東海	76	7.9	11	6.7
北陸	8	0.8	0	0.0
近畿	93	9.7	11	6.7
中国	13	1.4	1	0.6
四国	6	0.6	1	0.6
九州	12	1.2	0	0.0
外国	0	0.0	0	0.0
計	962		164	

0(0) 6 福岡	0(0) 1 鳥取	0(0) 2 石川	0(0) 8 長野	7(5) 18 新潟	
0(0) 1 佐賀	0(0) 4 岡山	0(0) 2 福井	0(0) 4 富山	甲信越	
0(0) 1 長崎	0(0) 8 広島	北陸			
0(0) 3 宮崎	1(1) 0 島根				
0(0) 1 熊本	中国				
九州					

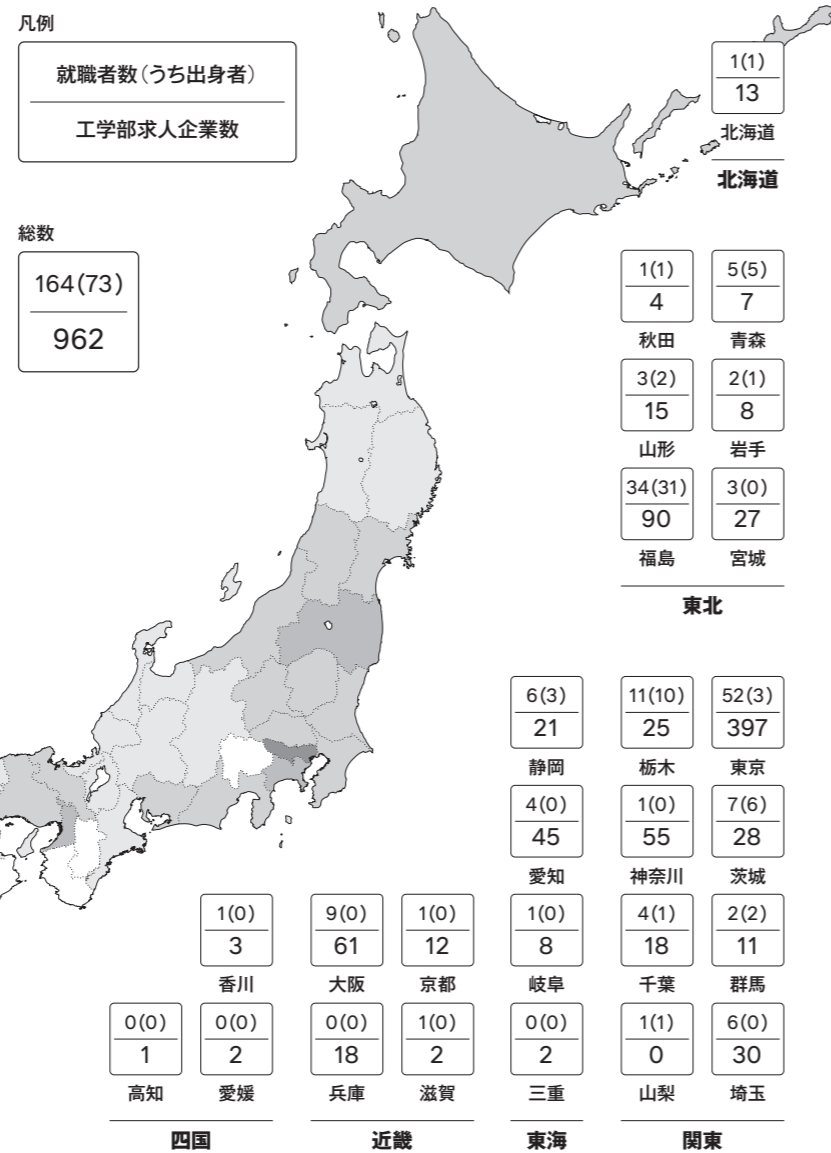


図1:都道府県別の工学部建築学科求人企業数と就職者数

工学部求人企業数
□:0/■:1~9/■:10~49
■:50~99/■:100~

表2:企業業種別にみた就職者数と応募区分

就職先業種	就職者数				推薦応募	
	男子(人)	女子(%)	女子(人)	男子(%)	全体(人)	女子(人)
A 建設・エンジニアリング	64	40.5	7	21.9	71	37.4
B 建築設備	9	5.7	1	3.1	10	5.3
C 住宅・不動産	20	12.7	9	28.1	29	15.3
D 設計事務所・コンサルタント	10	6.3	8	25.0	18	9.5
E 製造業・建築関連	10	6.3	0	0.0	10	5.3
F 官公庁	8	5.1	0	0.0	8	4.2
G その他	16	10.1	2	6.3	18	9.5
H 進学	21	13.3	5	15.6	26	13.7
就職・進学者数	158		32		190	

図2-2に示す規模別分布では、大企業が41.1%、上場企業が20%を超え、大手志向の傾向もみられました。やり甲斐のある仕事を目指す学生にとって2年生、3年生から実際にインターンシップに参加し、職場体験等で得られた情報に基づいた就職活動卒業生ネットワークの活用は重要です。情報過多の時代だからこそ、物事を見極める力が求められています。

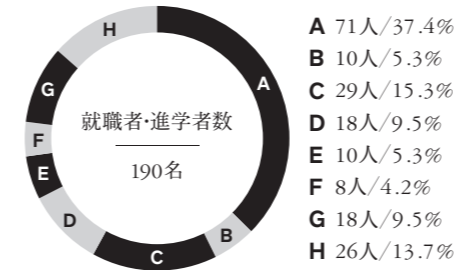


図2-1:進路先分布

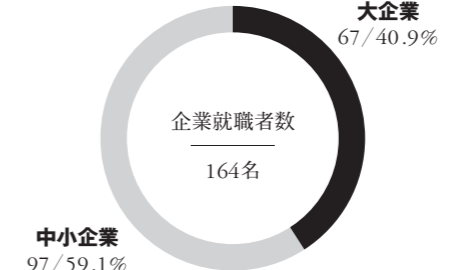


図2-2:企業規模就職分布

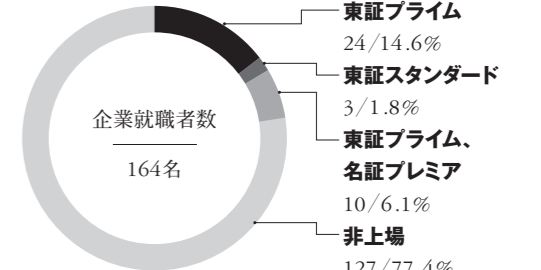


図2-3:上場区分

表3:工学部求人数の推移

西暦	全域	東京	関東	東北
2007	1543	694	240	122
2008	1374	674	202	109
2009	1052	515	143	105
2010	971	455	149	115
2011	913	408	137	133
2012	1118	480	167	180
2013	973	382	136	224
2014	1208	493	176	237
2015	1100	491	167	163
2016	1272	525	206	202
2017	1019	434	173	165
2018	977	413	175	162
2019	935	396	151	155
2020	1213	550	216	148
2021	962	397	167	151

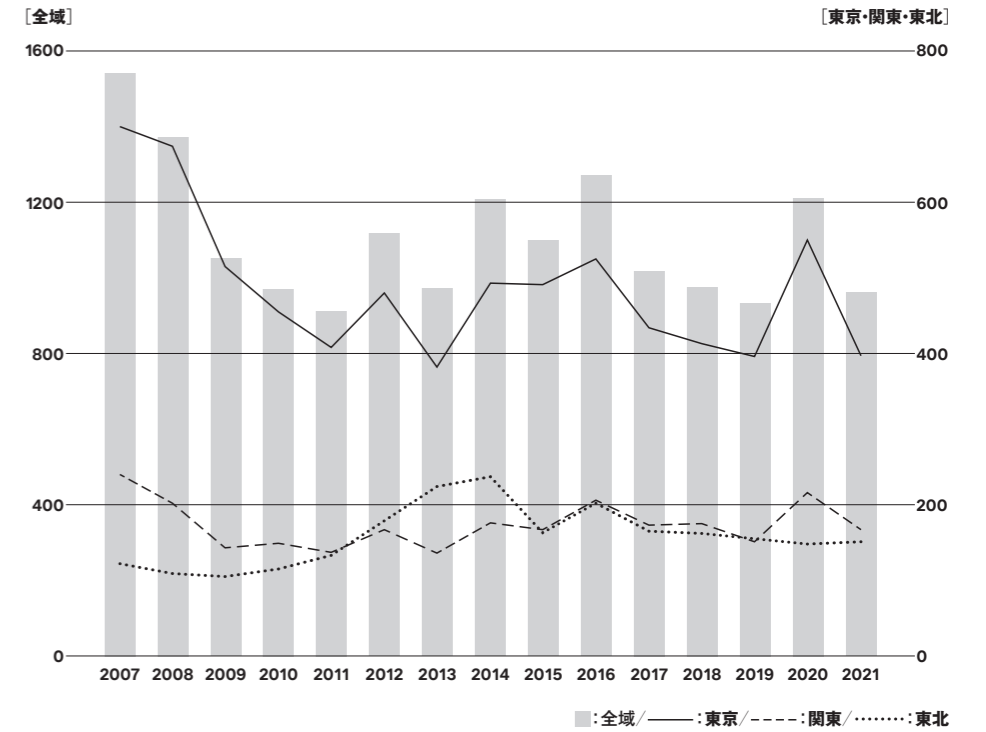


図3:工学部求人数の推移

令和3年度 就職状況報告／新任の紹介

【主な就職先】

建設・エンジニアリング

- 清水建設(株)
- (株)大林組
- 大成建設(株)
- (株)竹中工務店
- 五洋建設(株)
- 西松建設(株)
- (株)穴吹工務店
- 岩田地崎建設(株)
- (株)植木組
- (株)エムオーテック
- (株)大貫工務店
- 陰山建設(株)
- 金田建設(株)
- 川口土木建築工業(株)
- 関東建設工業(株)
- 菅野建設(株)
- 木内建設(株)
- クレハ錦建設(株)
- 佐藤工業(株)
- ジェコス(株)
- (株)島村工業
- 新日本建設(株)
- 西武建設(株)
- 青凌プラント工業(株)
- 大成ユーレック(株)
- 大東建設(株)
- 高松建設(株)
- 田村建材(株)
- TSUCHIYA(株)
- 東建コーポレーション(株)
- 日本国土開発(株)

- (株)ピーエス三菱
- (株)福田組
- 福浜大一建設(株)
- 不二建設(株)
- 松井建設(株)
- マルト建設(株)
- 若築建設(株)
- (株)ワタザイ

建築設備

- ジョンソンコントロールズ(株)
- (株)大気社
- (株)ユアテック
- 高砂熱学工業(株)
- 森平舞台機構(株)
- (株)ヤマト
- (株)サンライフエンジニアリング

住宅・不動産

- 大和ハウス工業(株)
- 積水ハウス(株)
- 住友林業(株)
- タクトホーム(株)
- グランディハウス(株)
- (株)一条工務店
- ポラス(株)
- 一建設(株)
- (株)アーネストワン
- 会津建設(株)
- (株)石井工務店
- 茨城セキスイハイム(株)
- (株)ウンノハウス

- MEホールディングス(株)
- (株)オノヤ
- JAPAN HOME WAND(株)
- 住友林業ホームテック(株)
- 栃木セキスイハイム(株)
- 日本住宅(株)
- NITOH(株)
- パナソニックホームズ北関東(株)

設計事務所・コンサルタント

- 玉野総合コンサルタント(株)
- (株)IAO竹田設計
- (株)伊藤喜三郎建築研究所
- (株)アーキパートナーズ
- (有)阿部直人建築研究所
- (株)APOLLO一級建築士事務所
- 開発技建(株)
- (株)久慈設計
- (株)クロスファクトリー
一級建築士事務所
- (株)シー・アンド・スタイル
- (株)都市開発設計
- (一財)ふくしま市町村支援機構
- (株)フケタ設計
- (株)本澤建築設計事務所
- (株)渡辺有規建築企画事務所

製造業・建築関連

- (株)東芝
- 三井金属エンジニアリング(株)
- VANTECH(株)
- (株)横森製作所

- (株)北斗型枠製作所
- 藤寿産業(株)

その他

- 東京電力ホールディングス(株)
- アサヒサンクリーン(株)(東京支店)
- ジーク(株)
- (株)GOOYA
- (株)ミサワ
- (株)栃木銀行
- (株)東日本技術研究所
- 郡中丸木(株)

公務員・団体職員

- 秋田県庁
- 山形県庁
- 栃木県庁
- 青森県教育委員会
- 八戸市役所
- 平川市役所
- 猪苗代町役場
- 千葉市役所

【進学】

- 日本大学大学院工学研究科
博士後期課程建築学専攻
- 日本大学大学院工学研究科
博士前期課程建築学専攻
- 宇都宮大学 宇都宮大学院
地域創生科学研究科
- 新潟大学都市計画研究室

ト研究の第一人者の谷川正己先生がこの工学部に居られ、建築史研究室でライト漬けの学生生活を楽しまました。国内のライトの建物はもちろん、卒業後は、アメリカにあるライトの設計の落水荘やタリアセン(事務所)などを観に行き、その時の興奮が今の設計活動の原動力になっています。

父は大工さんで、私の代から設計事務所を始めた新参者です。私はみなさんと同じ学生時代(たぶん2年生の頃)に、建築家の本を読んで、その建築家のように28歳までに一級建築士を取って、建築設計事務所を作って独立と決めて実現させました。事務所名を建築

研究所にしているのは、建築の実務半分、建築の勉強も日常の中で取り組み、雑誌や本での勉強はもちろん、気になる建物があれば実際に見に行き、空間を感じ、より良い建物設計に生かしていきたいと思って設計活動をしています。

今思えば、学生時代から建築への好奇心や情熱は今も変わっていません。建築が好きで楽しんでいます。そうした思いも含めて、学生の皆さんに設計の面白さやいままで経験など、学生時代の四年間過ごした郡山の母校である工学部で、非常勤講師として少しでも伝えていければと思います。どうぞよろしく願います。

学術論文／研究発表／教室ニュース

学術論文

・武田昌也、齋藤俊克、出村克宣、「ポーラスコンクリートの静弾性係数推定式における高炉スラグ微粉末およびフライアッシュの混和材係数の検討」、セメント・コンクリート論文集、Vol.75、pp.195-201、March 2022 .

・田中拓弥、齋藤俊克、出村克宣、掛川 勝、「吸水調整材の塗布量がポリマーセメントモルタル被覆コンクリートにおける接着強さ性状および中性化抵抗性に及ぼす影響」、セメント・コンクリート論文集、Vol.75、pp.240-246、March 2022 .

第76回セメント技術大会

日時:令和4年5月18～20日

場所:赤坂インターシティコンファレンスとオンラインのハイブリッド開催

・ポリマーセメントモルタル被覆コンクリートにおける塩化物イオン浸透抑制効果に及ぼす吸水調整材の固形分量の影響
.....○田中拓弥・齋藤俊克・出村克宣

・結合材をポリマーセメントモルタルとしたポーラスコンクリートの圧縮および曲げ強度性状
.....○田中秀暉・齋藤俊克・出村克宣

・再乳化形粉末樹脂を用いたポリマーセメントモルタルの電気抵抗率に及ぼす構成成分および材齢の影響
.....○荒木裕人・福井拓也・神田利之・齋藤俊克

■ 齋藤俊克准教授は、3月7日、福島県生コンクリート工業組合より品質管理監査会議副議長を再度委嘱された。(任期は令和6年3月31日まで)
■ 市岡綾子専任講師と市岡研究室は、3月9日、4月13日、5月11日に富岡町栄町団地地区高齢者散歩マップ制作WSに参加した。
■ 齋藤俊克准教授は、3月17日、日本材料学会東北支部常議員に再度選出された。(任期は令和6年3月31日まで)
■ 山口和紀さん(浦部研卒)が、3月23日に行われたJIA東北学生卒業設計コンクール2022で優秀賞を受賞し、JIA全国学生卒業設計コンクールに出展した。

■ 市岡綾子専任講師は、4月11日、環境省より令和4年度「脱酸素×復興まちづくり」FS委託業務に係る公募審査委員会委員を委嘱された。
■ 市岡綾子専任講師は、4月21日、桑折町より桑折町「歴史文化エリア」あり方検討委員会委員を委嘱された。
■ 市岡綾子専任講師と市岡研究室は、5月8日、矢吹駅前で開催されたHappy Sundayに地域おこし協力隊しおり場とのコラボレーションで参加した。
■ 5月9日に、福島県より、「県中農林事務所須賀川農業普及所整備」基本・実施設計業務の公募型プロポーザル審査委員に浦部智義教授(委員長)が委嘱された。
■ 5月13日に、福島県より、「(仮称)ふくしま木造化・木質化建築設計ガイドライン」作成業務委託公募型プロポーザル審査委員に浦部智義教授(副委員長)が委嘱された。
■ 5月13日に、大熊町より、「大熊町産業交流施設設計・施工・工事監理」公募型プロポーザル審査委員に浦部智義教授が委嘱された。
■ 市岡綾子専任講師と市岡研究室は、5月26日、白河市立開辺小学校5年生を対象とした景観学習の支援活動を行った。
■ 浅里和茂教授、日比野巧専任講師、堀川真之専任講師は、日本建築学会東北支部災害調査WG2(建物)委員として、令和4年3月16日に発生した福島県沖地震の災害調査をとりまとめ、日本建築学会東北支部が発刊する調査即報へ寄稿された。

■ 浦部智義教授と浦部研究室が「葛尾村復興交流館 ロハス蔵」で、第37回福島県建築文化賞(復興賞)を受賞した。
■ 川崎浩長君(PAREEK研究室:D1)の修士学位論文「コンクリートのひび割れの自己治癒を目的としたバクテリアの適用性に関する基礎的研究」、國井弘樹君(PAREEK研究室/現:藤寿産業(株))の修士学位論文「ジオポリマーの建築物適用に向けた耐火性状の把握及び複合材料の開発を目的とした実験的研究」、大越康貴君(PAREEK研究室/現:藤寿産業(株))の卒業研究論文「各非破壊検査法による自己修復コンクリートのひび割れ修復度の評価」、河合圭亮君(PAREEK研究室:M1)の卒業研究論文「脱炭素社会の実現を目指した二酸化炭素固定化コンクリート(CCC)の開発——高圧注入試験装置を用いた真空時間、CO₂の注入圧力及び中性化時間による検討——」が一般社団法人日本建築材料協会より優秀学生賞を授与された。

■ 川崎浩長君(PAREEK研究室:D1)の修士学位論文「コンクリートのひび割れの自己治癒を目的としたバクテリアの適用性に関する基礎的研究」と國井弘樹君(PAREEK研究室/現:藤寿産業(株))の修士学位論文「ジオポリマーの建築物適用に向けた耐火性状の把握及び複合材料の開発を目的とした実験的研究」が桜門建築会材料施工研究会より笠井芳夫賞を授与された。
■ 川崎浩長君(PAREEK研究室:D1)が2021年度日本建築学会大会(東海)学術講演会材料施工部門の「バクテリアを添加したモルタルのひび割れ自己治癒性能に関する基礎的検討」という題目での若手優秀発表賞の受賞により令和3年度工学部長賞を受賞した。
■ 川崎浩長君(PAREEK研究室:D1)が論文「微生物を利用した自己治癒コンクリートの最適な調合に関する実験的検討」で2021年度日本コンクリート工学会東北支部奨励賞を受賞し、5月18日にホテルメトロポリタン仙台にて表彰式が執り行われ、受賞記念講演をした。

教室ニュース



非常勤講師:

中山 武徳

担当科目:

建築設計演習II

今年度から非常勤講師として、後期、建築設計演習IIを担当します中山武徳です。

私は、この日本大学工学部を卒業後、設計事務所で修行し、県北の伊達市梁川町で株式会社中山建築研究所という設計事務所をやっています。

住宅はもちろん、主に公共施設の設計をしています。道の駅などの商業施設をはじめ、こども園や放課後児童クラブ、児童公園施設などのこどもたちの施設や、高齢者のための高齢者共同住宅、就業支援施設、最近では病院などいろいろな建物を設計しています。

学生時代は、フランク・ロイド・ライ

令和4年度 建築学教室教職員名簿

専任教員

教授	浅里和茂	鋼構造	16号館	1階	106	8734
教授	浦部智義	建築計画	45号館	3階	304	8743
教授	千葉正裕	構造力学	16号館	2階	204	8733
教授	濱田幸雄	建築環境工学	16号館	3階	310	8752
教授	速水清孝	近代建築史	9号館	3階	310	8872
教授	S.N.パリーク	建築材料学	9号館	1階	102	8747
教授	廣田篤彦	都市計画	9号館	3階	308	8749
教授	ブンタラS.G.	建築基礎構造	16号館	2階	206	8735
教授	森山修治	建築設備	16号館	3階	311	8751
准教授	齋藤俊克	建築材料学	9号館	1階	114	8740
准教授	野内英治	応用力学	16号館	2階	207	8744
准教授	山田義文	建築計画	45号館	2階	205	8741
専任講師	市岡綾子	建築計画	45号館	3階	305	8746
専任講師	日比野巧	構造力学	16号館	2階	205	8753
専任講師	堀川真之	鉄筋コンクリート構造	16号館	3階	106	8723
専任講師	宮崎 渉	建築関連法規	45号館	2階	207	8742
専任講師	山岸吉弘	日本建築史	9号館	3階	309	8737
助教	高橋岳志	インテリアデザイン	9号館	3階	307	8785

大学院

兼任教員・非常勤講師

非常勤講師	宇都宮雅人	建築職業倫理特論	16号館	3階	310	8752
非常勤講師	熊倉洋介	建築設計計画特別実習	45号館	3階	304	8743
非常勤講師	濱尾博文	建築構造設計特別実習	16号館	1階	106	8734
非常勤講師	米田正彦	建築職業倫理特論	16号館	3階	310	8752

学部

非常勤講師

非常勤講師	阿部直人	建築設計	9号館	3階	308	8749
非常勤講師	岡野春彦	建築施工I	16号館	2階	204	8733
非常勤講師	金谷祐昭	建築測量演習	9号館	1階	102	8747
非常勤講師	栗原隆	建築設計演習III	9号館	3階	310	8872
非常勤講師	佐久間宏一	建築設計演習I	45号館	3階	304	8743
非常勤講師	佐藤英次	建築設計	16号館	2階	207	8744
非常勤講師	佐藤好男	建築測量演習	9号館	1階	102	8747
非常勤講師	田中直樹	建築設計演習I	45号館	3階	304	8743
非常勤講師	田中雅美	建築設計演習III	16号館	3階	311	8751
非常勤講師	寺島守	建築設計演習IV	9号館	3階	310	8872
非常勤講師	中山武徳	建築設計演習II	9号館	3階	310	8872
非常勤講師	鍋田友宏	建築造形演習	45号館	3階	305	8746
非常勤講師	原澤一仁	建築設計	16号館	2階	207	8744
非常勤講師	檜山延雄	建築設計	9号館	3階	308	8749
非常勤講師	平野由朗	建築設計演習IV	45号館	3階	304	8743
非常勤講師	藤倉祐介	建築材料実験	9号館	1階	102	8747
非常勤講師	松田知子	建築設計演習III	9号館	3階	310	8872
非常勤講師	森田健一	建築施工II	16号館	2階	204	8733
非常勤講師	渡邊宏	建築設計	9号館	3階	308	8749
非常勤講師	渡部和生	建築設計	9号館	3階	310	8872

事務局員

教室事務	小林まゆみ	建築学科センター	16号館	3階	309	8730
------	-------	----------	------	----	-----	------

[共通電話局番:024-956]

編集後記：創建の命名者は幸田太一先生(故人)、巻頭にあるタイトルは倉田博先生(故人)の筆によるものです。創刊当時の編集は谷川正己先生(故人)と谷川研究室の学生によって行われていたそうです。(高橋)

お願い：編集室までご意見・ご感想をお寄せください。
ceb.soukon@nihon-u.ac.jp